



巻頭企画

神奈川県知事 黒岩祐治氏「インタビュー」

住みやすく働きやすい

神奈川県の魅力

PROFILE

神奈川県知事 黒岩祐治

1954年9月26日生まれ。兵庫県神戸市出身。早稲田大学政経学部卒業後、株式会社フジテレビジョン入社。報道記者、番組ディレクターを経てキャスターに。自ら企画・取材・編集まで手がけた救急医療キャンペーンが救急救命士誕生に結びつく。その後、国際医療福祉大学大学院教授を経て、2011年4月から現職。2019年4月、神奈川県知事3期目に就任。

神奈川県には地域に愛される地元企業から、世界レベルで展開する大企業までたくさんの魅力的な企業があります。また、神奈川は古い歴史を残しながら、最先端の技術や文化も有するエリアです。首都圏の「住みたい街ランキング」では毎年必ず上位に名前があがるなど、住みやすさや人気も高い水準を維持しています。地元・神奈川の魅力や働く意義について、黒岩神奈川県知事にお話を伺いました。

3歩先行く、神奈川県

神奈川県というと、学生のみなさんの多くは「先進性」というイメージを持たれるのではないかと思います。私は「3歩先行く神奈川県」と言っていますが、神奈川県は新しいことへの挑戦に対して高い意欲や意識を持った人や企業が多い、どこよりも進取の精神あふれる県だと思っています。

たとえば、2015年の国連サミットで採択されたSDGs。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された国際目標を掲げ、今、世界中で取り組みが行われています。日本でも2018年6月に地方創生の取り組みとして「自治体SDGs」のモデルとなる10の自治体が選定されましたが、神奈川県はSDGs最先端の自治体として、全国自治体SDGsモデル事業・選定10事業のなかで、都道府県としては唯一選出されました。10事業のなかには横浜市と鎌倉市も入っていますので、3割が神奈川県勢ということになります。それだけ、時代の先を見据えた地域だということです。

だからこそ、今、若い人たちの力をもつと必要だと考えています。従来の発想にとられない働き方も、若者の柔軟な考えで進めていくことで、さらによいものができると思っています。

ライフスタイルと合わせた形だと、近年ではモバイル活用があります。会社以外の場所でも仕事ができるしくみをつくり、早朝にサーフィンを楽しんだあと、海岸でパソコンを使って仕事をするなど、柔軟な発想ができるのが「神奈川県らしさ」ではないでしょうか。

特にベンチャーマインドを持った人は大歓迎です。神奈川県はソフトバンク株式会社との包括連携協定で、県内産業の活性化に向けた活動推進のため「WeWorkオーシャンゲートみなとみらい」に県

専用デスクを設置し、ここに2名の県職員を常駐させています。

ベンチャー支援に関わる県の職員が常駐して、ベンチャーの人たちと日常的にふれあうことで、新しいアイデアや発見がダイレクトに県に届きます。相談の内容によつては、すぐにセクション担当者と具体的な相談ができる環境は、ベンチャーの人たちにとつても有益ですが、県庁職員にとつても「究極の働き方改革」ということができます。自分のデスクで毎日同じ景色を見ながらではなく、ベンチャーの拠点である「WeWork」内で新しい人たちが考え方にふれることで、さらにその先の流れをつくつていこうというビジョンです。

「未病の改善」に取り組む

神奈川県では「未病の改善」にも力を入れています。現在、全国的に高齢化の進行が課題となつていますが、神奈川県は全国屈指のスピードで高齢化が進んでいます。2010年時点で20・2%だった高齢化率は年を追うごとに上昇し、2050年には35・0%に達する見込みです。

高齢社会を超えた超高齢社会は、ますます深刻な状態にあり、このまま進行すれば、医療・介護費の高騰や社会システムの崩壊など、さまざまな問題が起こることが予想されます。これはもはや、国や自治体レベル

WeWork (ウィークワーク)

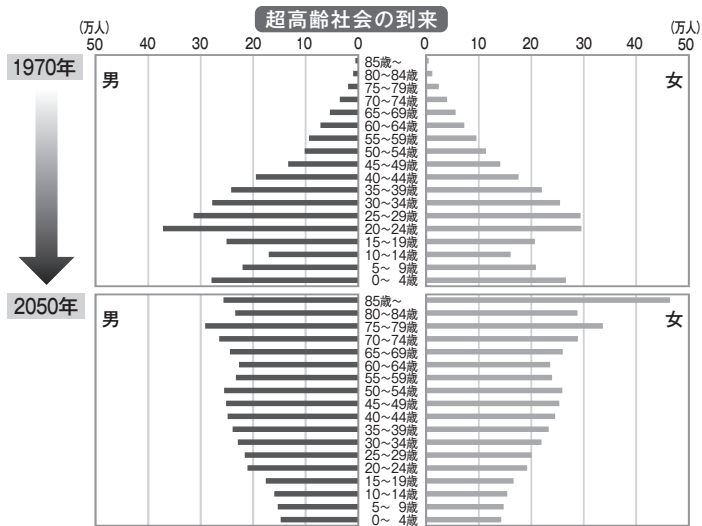
2010年にニューヨークでスタートアップ企業への事業環境提供を目的として創業された「コミュニティ型ワークスペース」。2019年4月時点で、全世界32カ国100都市547カ所でオフィス展開し、ベンチャーから大企業まで40万人以上が利用している。日本ではソフトバンク株式会社との合弁会社で2018年2月に日本で初めての拠点が開設され、現在は丸の内、新橋、六本木など都内各所のほか、横浜、大阪、福岡に開設され、さらなる展開が計画されている。

ルの問題だけでなく、身近な社会生活にもさまざまな影響を及ぼすことは必至です。こうした高い危機感のもとに打ち出したのが「未病」という考え方です。

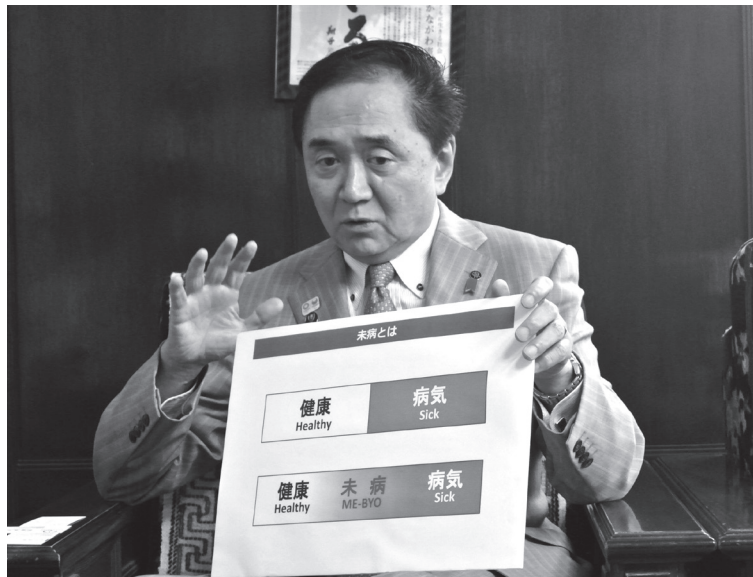
これまで、病気の概念というのは「健康か病気のどちらか」という考え方でしたが、健康と病気は連続的につながっている、これが「未病」と提唱しました。「未病の改善」は、病気（赤）になつてから健康（白）に治すのではなく、どこにいても健康（白）に近づけていこうとする考え方です。

日本は、世界のなかで最も高齢化率が高く、高齢化に関する課題先進国です。その日本のなかで高齢化の進み方の早い神奈川県がこの課題にどう対応していくか、世界中の注目が集まっています。

神奈川県では、2015年度からは2年に1度、「MEBYOサミット神奈川」という国際会議を開催してきました。2019年の秋には



1970年(国勢調査実績)と2050年(県の将来人口推計)の年代別人口の割合(神奈川県提供)



未病について語る黒岩知事

神奈川県が打ち出す「未病」のコンセプト



← 未病改善



未病改善ヒーロー 『ミビョーマン』

第3回目を開催する予定です。「ME-BYO（未病）」はもはや国際的な用語として世界に発信しています。

未病の改善には「食・運動・社会参加」が重要ですが、これはSDGsの考え方とつながっています。「年を取ると病気になるのがあたりまえ」という世の中では、とても持続可能な社会をつくることはできません。未病改善のアプローチと最先端医療や最新技術を融合させたのがヘルスケア・ニューフロンティアという政策です。

そこには「未病産業」という新しい世界が始まり、ロボット技術やITを駆使した医工連携、そして医療の高度な情報化など、新しい企業も次々と生まれています。神奈川県がつくった未病産業研究会には700社を超える企業が参加していて、ますますの発展が期待されています。

これから取り組もうと思っているのは、藤沢市、鎌倉市との3県市連携による、新たなまちづくりです。JR東海道本線の大船駅・藤沢駅間への「村岡新駅（仮称）」設置に向けた取組を進めるとともに、村岡・深沢地区に、武田薬品工業株式会社が進めている「湘南ヘルスイノベーションパーク」を中心とした、最先端のイノベーション拠点を形成していく予定です。現在は川崎市殿町地区をオープンイノベーション拠点として、世界最高水準の研究開発から新産業を創出する取り組みを展開していますが、この第2の拠点として、大きな成長を見込んでいます。

ME-BYO サミット神奈川

神奈川発の未病産業の創出を図るとともに、県民への未病概念の浸透・行動変容の促進を図るため、国内外から有識者を招聘し、未病について幅広い議論を行い、持続可能な新たな社会システムの実現に向けた行動目標等を戦略としてまとめて国内外に発信するシンポジウム。2015年度は「未病サミット神奈川宣言」を採択し、2017年度は「ME-BYO 未来 戦略ビジョン」を採択した。

ライフスタイルに合った働き方

「未病を改善する」という考え方で健康寿命を延ばしていけば、どれだけ社会が高齢化しても生き生きとした人生を送ることができるとは思います。人生100歳時代に向け「スマイルあふれる100歳時代」の到来を目標にした「神奈川県モデル」を、日本のみならず世界中へ発信しています。

神奈川県は「日本の縮図」だと私は思っています。横浜・川崎のような大都会もあれば、田園地帯が広がるローカルな地域も残っています。山もあれば海もあり、歴史ある古都・鎌倉や、日本有数の温泉地・箱根もある、日本中の魅力がぎゅっと凝縮されたエリアだからです。しかも都心からも近く、便利です。こうした環境下で、未病を改善しながらワークライフバランスを実現できる可能性が大きいというのが、神奈川の非常に大きな魅力につながっていると思っています。

神奈川県では、オリジナルのライフスタイルを実現している人がたくさんいます。先に述べた、湘南に住んで朝サーフィンをしてからオフィスに行っている例もそうですし、南足柄に住んで平日はオフィスワーカーとして働きながら、週末は農作業を楽しむ生活を送っている人もいます。もちろん、横浜・川崎のような職住接近の環境で仕事をするのも可能です。こうしたライフスタイル込みでの生活スタイル、仕事の働き方が選べるのが、神奈川県の大きな特徴ではないでしょうか。

中小企業と女性応援

働く場所の環境向上も、重要なテーマです。神奈川県内にはキラリと光る優良な中小企業もたくさん



黒岩祐治神奈川県知事

ありますが、中小企業が元気でないと県内産業は活性化しません。神奈川県でもヘルスケア・ニューフロンティア産業や、ロボット産業など中小企業の活躍の場を増やし、活性化を図ってきました。中小企業だけに限ったことではありませんが、現在もつとも深刻なのは、人手不足と事業承継という問題です。優良な中小企業のなかには、黒字なのに後継者不在で廃業に追い込まれるというケースもありました。

そこで今、県が打ち出しているのが「企業経営の未病改善」です。経営が危機的状況になる前に支援の手が差し出せるようにすることで、企業の事業継続と県内経済の活性化につなげていきたいと考えています。

また、中小企業で働き方改革は難しいと思われるがちですが、「中小企業こそ、働き方改革を！」というパンフレットをつくりました。働き方改革を進めなければ、人はもつと集まらなくなってくる、だから、神奈川県全体で中小企業の働き方改革が率先して進んでいく流れをつくろうとしているところです。

人手不足の解消には、女性の活躍も欠かせません。神奈川県では「かながわ女性の活躍応援団」を結成し、企業等の男性トップの意識改革にも力を入れていきます。女性のトップが女性を応援しようとするのはあたりまえですから、あえてメンバーを男性の経営者のみに限定しました。女性の発想を商品化した「なでしこブランド」や、育児や介護をする職員を応援する「イクボス宣言」など、さまざまな取り組みを行っています。

神奈川県は、「自分が未来をつくっていくんだ」という思いのある人にとっては、どこよりも働きたいのあるエリアだと思えます。学生のみなさんは、「可能性を常に信じて、飽くなき好奇心を持っていろいろなことに挑戦してほしいと思います。失敗してもいいじゃないですか。「失敗したらやり直す」、そういうチャレンジ精神あふれる人たちにとって、一番働きやすいのが神奈川だと思います。ぜひみなさんの「チャレンジ」を待っています。

働き方改革

2019年6月、神奈川県は、通勤時間を30分短くして、神奈川県内のサテライトオフィスを週1回使えば、年間621億円の経済効果が生まれるという試算結果を発表した。働き方改革は経済効果にもつながっている。